

市町村指定文化財取材票 <表>

取材日	2024年	4月	10日	(記入者) 喜多志乃	
取材参加者	石井	垣内	喜多	久門	島田
	鶴田	本井	横山		
取材対象先	天川村：来迎院の大日如来坐像、千手観音立像、不動明王尊像及び二子立像				

所在地	吉野郡天川村坪内37				
所有者(取材 対応者)名	来迎院、坪内区		連絡先 *** (***) 区長)		
	*** 区長(個人情報守秘)		PCアドレス		

取材申込 申込先・行政名など：

市町村 指定文化財	彫刻 3 軀	1.千手観音立像 1994(平成6)年6月3日指定 2.大日如来坐像 同上 3.不動明王尊像及び二子立像 同上
	建造物 棟	

文化財指定理由

1、本尊の背面、大ぶりの舟形光背には一面に木製の小さな手が嵌め込まれるようになっていて、当時の庶民信仰の様子が偲ばれる。

2、室町期の優品で台座、光背共に保存もよく貴重である。光背を縁取るカラクサ模様は室町金工美術として見られるものである。

3、三尊揃って一木造り。火焰は大きく頭上高く燃え上がって右になびき鋭い。三尊無傷で残っているのは貴重である。

文化財の状況

防火対策	設備・対策・点検・通知方法など	記入者の感想
	消火器は入り口近くに1本、内陣前に3本配備。講でそれぞれの分担を決めて対応に当たっているが、管理する資金繰りに苦勞されているとのこと。	内陣前に消火器を3本も設置していて、講の方々の仏像を大切にする信仰心が感じられる。

獣害対策	被害の有無、対策など	記入者の感想
	天河大弁辨天社の隣にあるためか、人通りも多く、害獣も寄り付かないらしい。	特になし。

保存～継承へ苦勞と今後の課題と対策

2011(平成23)年9月の紀伊半島水害の際には、来迎院より坂の下辺り(天河大弁辨天社の入口)まで浸水したが、来迎院はその入口より少し高い位置にあるため浸水は免れたという。ただ天川村の地形特有の急斜面の下にお寺が立てられ、しかも木のほとんどが伐採されている。水害もさることながらゲリラ豪雨などの最近起こっている未曾有の気象状況による土砂災害等を懸念する。隣の天河大弁辨天社の塔頭だったという当寺で、月1回、南日裏の吉祥寺から読経に来てもらっており、講の方々がそれぞれ役割を担当しお寺と仏像を見守っておられる。

取材を終えて感じた文化財保護状況と今後の課題(修復、維持、管理、環境など)

私たちが訪れた4月10日(水)は平日に関わらず、たくさんの観光客が訪れていた。私たちは区長さんをお願いして御堂を開けて頂いて仏像を拝見したのだが、私たちに紛れて仏像を見ておられた方もいた。3軀の仏像を秘仏とされているなら仕方ないが、たまたま公開する機会がないという理由で鍵をかけて閉めておかれるのは勿体ないような気がする。

市町村指定文化財取材票<裏>①

取材日	2024年	4月	10日	(記入者) 喜多志乃	
取材参加者	石井	垣内	喜多	久門	島田
	鶴田	本井	横山		
取材対象先	来迎院の千手観音立像				

<写真撮影許可済み>

文化財指定名 千手観音立像

文化財 (正面写真)	文化財 (角度を変えて、写真)
	
<p>文化財 (安置状態の全体写真)</p>	<p>山の前に建つ来迎院</p>
	
<p>文化財の由緒などを記入</p>	<p>所有社寺や地域 (廃寺等) の歴史や特徴を記入</p>
<p>脇侍として地藏菩薩、多聞天王を従えた密教像であり、元は天河大弁辨天社伽藍のうち観音堂の本尊仏である。寄木造、像高158cmで、像の後ろ側に肥前(佐賀県)の大乗坊という寺の院主が自坊の隆盛を願って1575(天正3)年に寄進した旨の刻銘がある。本体からの四二手の他に光背に千手千眼を意味する小手が貼り付けられている。(天川村史などから)</p>	<p>もとは天河大弁辨天社の塔頭の一つであり、山岳信仰や弁財天信仰が盛んであった。空海が高野山の開創に先立ち、天河大弁辨天社に参籠し、神仏習合の「阿字観」を完成させたといわれる、その「阿字観の碑」がこの来迎院にある。春には枝垂桜、そして秋には高さ35mもあるとされる空海御手植えと伝わる大きな銀杏(県の天然記念物)もある。(天川村ホームページ、天川村史より)</p>

市町村指定文化財取材票<裏>②

取材日	2024年	4月	10日	(記入者) 喜多志乃	
取材参加者	石井	垣内	喜多	久門	島田
	鶴田	本井	横山		
取材対象先	来迎院の大日如来坐像				

<写真撮影許可済み

文化財指定名 大日如来坐像

文化財 (正面写真)	文化財 (角度を変えて、写真)
	
文化財 (安置状態の全体写真)	入り口近く (左) と内陣前にある消火器
	
文化財の由緒などを記入	所有社寺や地域 (廃寺等) の歴史や特徴を記入
本尊は真言密教法界のうちの胎藏界に属する大日如来で天河大弁辨天社伽藍のうち多宝塔の本尊仏 (像高45cm)。嵌眼、乾漆製、室町期のもので、1743 (寛保3) 年の調査書に安阿弥の作と記してある。(天川村教育委員会発行の冊子「ふるさとの文化遺産」から)	<<裏>>①と同じ

市町村指定文化財取材票<裏>③

取材日	2024年	4月	10日	(記入者) 喜多志乃	
取材参加者	石井	垣内	喜多	久門	島田
	鶴田	本井	横山		
取材対象先	来迎院の不動明王尊像及び二子立像				

<写真撮影許可済み>

文化財指定名 不動明王尊像及び二子立像

文化財 (正面写真)	文化財 (角度を変えて、写真)
	
文化財 (安置状態の全体写真)	垂桜と天然記念物の銀杏 (左) と「あ字観の碑
	
文化財の由緒などを記入	所有社寺や地域 (廃寺等) の歴史や特徴を記入
<p>3 軀の像は、一木造りで等身大の堂々として気魄に満ちた見事な仏像である(像高162cm)。この不動明王には2つの特徴があり、藤原中期の作風ということ、そして不動明王の大きめの頭や着衣の強い表現など、平安時代の穏和な作風からかけ離れているということ。藤原中期の古像を模倣しながら、鎌倉初期頃に制作されたと思われる。(「大和の天の川」誌、天川村ホームページから)</p>	<p><<裏>>①と同じ</p>